

◆執行部任期を終えて◆

生徒会会長

〇〇〇〇

この一年間生徒会会長を務め、たくさんの方の力を借りながら、先生方や執行部のみなさんの協力なしでは何もできなかったけれど、カルタ大会や体育祭、文化祭などの大きな行事を経験していくにつれ、自分の立場や何をすれば良いのかがわかるようになり、みんなの足を引っ張らない程度には成長できたと思います。

一番緊張したのは生徒会選挙の立会演説です。何日も前からたくさん練習していたので大丈夫だと思っていました。実際にステージの上に立ち、演説しようとする体が震え頭が真っ白になり、ところどころ内容を忘れてしまったところもありました。行事や壮行会での挨拶も、緊張したり足が震えたりするので、正直に言うのが嫌だったけれど、挨拶が終わるたびに感じる安堵感や解放感は、この先一生忘れることはないと思います。

前年度の生徒会会長のようにつこよく、尊敬されるようになりたいという願いは叶わなかったけれど、様々な行事での、みんなの楽しそうな顔を見ると、「やってよかったな」という気持ちになりました。特に体育祭では、九年生を中心に各学年の盛り上げ上手な生徒が士気を高めてくれたおかげで、練習からみんなの笑顔があふれる「彩虹」の体育祭になり、僕にとっても一番の思い出になりました。支えてくださった先生方、協力してくれた生徒のみなさん本当にありがとうございました。そして、僕にできなかったことを助けてくれた執行部のみんな、一緒に執行部として活動できたことが僕にとっての最高の思い出です。



生徒会副会長

〇〇〇〇

任期を終えて今思うことは「やりきった!」です。はじめはわからないことばかりで不安だったけれど、前執行部の皆さんと協力しながら仕事を覚えることができました。

僕が一番に残っているのは体育祭です。準備は一学期からしました。今までは言われたことをただやるだけだったけれど、企画するところから始めなければなりません。先輩方の資料を参考に、先生方にも教えてもらいながら、手探りの状態ではありましたが、一つずつ準備をすることができました。とても大変で投げ出したくなったりもしましたが、自分たちを信じて選んでくれた全校生徒のために「しっかりとやらなく」という思いで頑張ることができました。

様々な行事を通して僕は大切なことに気づきました。それは困難に直面した時の考え方です。様々な行事のたびに大変なこ

とやしないこと、いわゆる「壁」にぶつかります。そんな壁にぶち当たった時、今までは、その壁を一人でどう越えるかだけを考えていました。でも、今は違います。違う方向に進んでみたり、仲間や周りの人に助けを求めたりして越える方法もあると思うようになりました。つまり困難に直面した時には柔軟な考え方が必要だということです。このことを今さらながら学ぶことができました。この一年間はこれまで以上の人生、そしてこれからの人生において、何事にも代えがたいかけがえのない時間を過ごした。こんな経験を僕にさせてくださった波賀中生のみんな、先生方、そしていつもそばで支えてくれた執行部の仲間たち、本当にありがとうございました。

学習図書委員長

〇〇〇〇

一年間ありがとうございました。しんどいこともたくさんありましたが良い経験になりました。僕が印象に残っていることは、まず生徒会選挙です。初めて全校生徒の前で喋ったので、とても緊張して言葉が詰まったり何を喋るか忘れてしまいましたが、とてもいい経験になりました。翌朝、当選者の欄に自分の名前があつて、とても嬉しかったです。

カルタ大会は、執行部になって初めての大きな行事でした。みんなでカルタの枚数が全部そろっているか数えた日が懐かしいです。カルタを数えたあと、読み札を読む練習をたくさんしました。そして迎えた本番、なんと読み札もスラスラ読めて、とても達成感がありました。カルタ大会が終わってからは「お疲れ!」と言いかい、行事の成功を喜びました。体育祭は全部自分たちで決め、みんなに指示を出さなければならぬので、大変でした。初めてみんなに指示を出す時は、とても緊張しました。僕は、人前で喋るのは苦手でしたが、何度も喋っているうちに慣れました。担当種目の練習内容を考えたり、放課後に残ってソーラン節を踊ったり、とてもしんどかったけれど、これまでの人生で感じたことのないほどの達成感がありました。

文化祭での全校合唱の練習は、音楽が苦手な僕が下手なことと言えないのでどうしようか迷っていたけれど、先生がポイントを書いたプリントを作ってくれたのでスムーズに練習できました。みんながしっかりと指示を聞いてくれたので合唱も上手になり、最高の文化祭になったと思います。最後になりましたが、僕は、本当に執行部に入ってよかったです。しんどいこともあったけれど楽しいことの方が多かったです。生徒のみなさん、先生方、一年間支えてくださりありがとうございました。

生活美化委員長

〇〇〇〇

僕が執行部に入った時、生活美化委員長としての目標を決めました。それは「学校に感謝し、清掃活動に取り組み」と「厳しく服装点検をしよう」です。掃除が嫌いな人は多いと思いますが、普段使っている教室や特別教室など、思い出がまった校舎に感謝の気持ちを持って掃除をしようと思えました。服装点検にも力を入れました。きちんとした服装の生徒が増えることを願って、式典や制服登校の日には点検をしました。僕が生活美化委員長になってから、きちんとした服装の生徒が増えて嬉しく思っています。生活美化委員長になって良かったと思えました。

体育祭では、多種目リレーの担当でした。練習の時、生徒の一人が「多種目リレーするの?」と聞くので「するよ」と言ったら「やった!」とみんな喜んでくれて、そのとき本当に嬉しくて、「楽しんでくれてる!」「盛り上げられてる!」と実感できました。波賀中生徒の凄さは、最初から分かっていた。でも体育祭当日、練習や予行演習とは桁違いのパワーを目にして、ここまで凄いと予想できなかったです。生まれて十五年間でこんなに熱くなったのは、初めてでした。文化祭でも、波賀中生徒の凄さがよく分かりました。今回の文化祭では、たくさん涙が見られました。この涙は、何よりも輝きを持ち、僕自身とても感動しました。体育祭と文化祭で、僕は完全に波賀中生徒に惚れました。生徒会執行部のお陰でたくさん感動に出会い、忘れられない思い出ができました。僕を執行部役員に選んでいただき本当にありがとうございました。



保健給食委員長

〇〇〇〇

この一年というのは本当にあつたという間でした。はじめての行事は小中合同カルタ大会で、最初の仕事は百人一首の枚数を数えるという地道な作業でしたが、とても楽しかったのを覚えています。カルタ大会の運営は、最初の行事というのもあり戸惑うことや緊張もあったけれど、皆さんの楽しそうな表情を見て安心して進められました。そして、専門委員会の進行も、最初はどのように進めればよいか全くわからず、グダグダの専門委員会だったと思います。それから回数を重ね、スムーズに進行できるようになりました。

体育祭は、夏休み前から準備をし、試行錯誤を繰り返しながら練習に臨みました。行事には、一人一人の力が必要となります。一人一人の力というのは個性や自分の色を表している

思います。そんな自分の色を輝かせて競い合った体育祭は、いくつになっても忘れることはないでしょう。文化祭でも一人一人の力が必要で、気持ちを一つに、つまり声を一つにするということが大切でした。九年生としての合唱はもちろん、全校合唱でも六十四人の想いや気持ちを一つの塊として観客の方々に届けることができた最高の合唱になったと思います。

これまでのことを思い出すと、様々なことが浮かんできます。大変だったこと楽しかったこと、そのすべてが一つ一つのパズルのピースです。そのピースがはまっていき三月の卒業の日には全てのピースがはまり、中学校三年間という大きなパズルが完成するのだと思います。そして、永遠に鮮明に僕の心に残り続けるでしょう。今まで本当にありがとうございました。

放送委員長

〇〇〇〇

一年前、すごく緊張しながら立会演説をしたのを懐かしく思います。憧れていた執行部に入って、嬉しい気持ちもあつたけれど、上手くやっていたのかという不安もありました。それでも僕たちが試行錯誤して考えた「彩虹 Looking for our treasure」というスローガンのように最高(彩虹)の学校になつてほしいと思っていました。「彩虹」と書いて「さいこう」、個性あるいろんな色の僕たちが宝物を見つけていこうという意味が込められた素敵なスローガンになりました。夏休み前には、体育祭でのソーラン節の振り付けを考えました。腰の高さ、動きの大きさ、足の開き方など細かい所まですぐこだわりました。ポイントなどを忘れず、みんなに教えられるように家でもたくさん練習しました。おかげで本当にかっこいいソーラン節になったと思います。

文化祭スローガンの「彩虹 一人一人が奏でる青春」には、波賀中生徒の彩りを体育館に響かせ、青春という歌声を奏でようという意味が込められているので、僕は学校生活最後の大舞台で全力を出し切ろうと思いました。当日、観客がたくさんいる中で初めての挨拶をするのはすごく緊張したけれど、大きな声でしっかりと言うことが出来ました。

一年間を振り返るとたくさんの思い出がいっぱいです。募金活動、ペットボトルキャップやプルタブの回収、SDGsへの取り組みなどもありました。初めは、何でも人に聞いていたけれど、今は自分で考えて行動出来るようになったと思います。指導してくださった先生方、そして執行部の仲間たち、一年間本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

